

教科名	理科	科目名	生物Ⅱ	履修クラス	3年自由選択	
				担当者	柳下 信	
使用教科書		「高等学校 生物Ⅱ」・三省堂			履修単位数	3単位
副教材等		「ニューグローバル生物Ⅰ及びⅡ」 「Let's Try Note 生物Ⅰ」 東京書籍				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
いろいろな生命現象のより確実な理解を深めるとともに、生物Ⅰ・Ⅱの入試問題に対応できるような力をつけることを目標とする。	定期テスト、実験レポート等提出物などをあわせて総合評価する。

年間授業計画			
月	予定時数	単 元	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動
4	中間 考査 まで 18	タンパク質 と生物体の 機能	生体内の化学反応と酵素、異化と同化 遺伝の法則、いろいろな遺伝、ヒトの遺伝 様々なタンパク質とその機能 演習問題
5			
6	期末 考査 まで 21	遺伝情報と その発現	遺伝子と染色体の関係、性の決定と伴性遺伝、遺伝子の本体 遺伝情報に基づくタンパク質の合成 演習問題
7			
9	中間 考査 まで 21	遺伝情報と その発現	細胞の分化・形態形成と遺伝情報 バイオテクノロジー 演習問題
10			
11	期末 考査 まで 21	生物の多様 性 生物の集団 と環境	生物の多様性と分類・系統 生物界の変遷 生物の生活と適応 演習問題
12			
1	学期 末考 査ま で 9	課題研究	課題研究の進め方 演習実験
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
断片的な知識をただ蓄えるのではなく、それらを総合的にとらえたり、自然界の奥にある法則性を探究することにより自然を理解することが必要である。また、受講生には入試問題を解けるようになることが1つの目標でもあるので、積極的に問題を解き、演習を繰り返すことを要求する。1年次の生物Ⅰに比較して授業進度が速く、密度も高いので予習・復習をしっかりと行い、集中して授業に取り組むこと。